

第6号

明大校友会西東京だより

発行
明治大学校友会
西東京地域支部
事務局
西東京市芝久保町
2-1-21 (有賀)
TEL 042-467-9815

平成二二年度地域支部 定期総会開催

平成二二年度五月三〇日(日)



西東京地域支部長
S三一年・経営卒
有賀 茂

平成二二年度定期総会が五月三〇日田無庁舎にて開催され、来賓四名を含め三五名が出席。江原副支部長の司会により丸岡副支部長の開会挨拶、有賀支部長の挨拶、その後支部長を議長に選出し議事にうつりました。

事より「平成二二年度会務及び行事報告、決算報告及び、会務監査報告」がなされました。引続き垂水副幹事長、吉田会計幹事より「平成二二年度事業計画案、予算案」が提案され、承認されました。

江原副支部長より本日出席の来賓の紹介の後、来賓の祝詞をいただきました。最後に中澤幹事より閉会の挨拶があり定期総会は終了いたしました。



恒例の武藤幹事による全員肩を組んでの校歌熱唱、水井幹事の閉会の挨拶でお開き。楽しく有意義なひと時を共有することができました。

定時代議員総会開催

七月二五日、本学リパティホールにおいて定時代議員総会が開催され四七〇名が出席した。

総会は、向殿校友会長のあいさつ、長堀理事長、納谷学長の祝辞があり議事に入る。

議事は、二〇〇九年度会務報告、役員任期制についての検討に続いて、二〇〇九年度決算、二〇一〇年度事業計画案、同予算案他四件について審議決定した。議事終了後、親子孫三代卒業生表彰に続き、九月五日開催される全国校友山形大会および来年開催の東京大会をアピールし閉会した。

全国支部長・地域支部長 本部員懇談会開催

七月二四日、本学アカデミーコモンにおいて二〇〇余名が出席し開催された。

懇談会は、向殿校友会長、長堀理事長、納谷学長のあいさつがあり、長堀理事長から、本学創立一三〇周年記念事業として、黒川新農場(川崎市)を二〇一二年に、中野キャンパスを二〇一三年、明治大学スポーツパーク(仮称・東京都日野市)を二〇一四年にそれぞれ整備するなど、本学の更なる発展と共に施設の拡充を進める計画等について報告があり閉会した。

西東京の歴史について

講師 郷土史研究家
下田 五郎氏

知ってましたか?

西東京は古代、倭国の時代すでに人は住んでいました。それが九〇〇年位続き、中世の鎌倉、室町時代に田無が出来ましたが、関東ローム層の武蔵野台地、すなわち乏水性台地で未開の地でした。多摩川のような河川がそばでないと文明は生まれません。

しかし近世になって築城に必要な石灰を運ぶための青梅街道が出来、田無は宿場町として発展しました。その頃は中心に田無村があり、西側に田無新田、その西北に下保谷新田がありました。ここに人は住んでいません。田無村の東に上保谷村その東に下保谷村、

田無村の南に上保谷新田村があり、村役人が居て行政組織があったわけです。字について云えば中心が「宿」、北が「谷戸」、西は「芝久保」、東が「柳沢」、南は「向台」となっています。地名と漢字は関係なく「ほうや」は「穂屋」などと書かれています。これは北条氏の領地で大田族の支配下にあった頃です。



西東京は乏水性台地で未開の地と云いましたが、大きな川の水源地がある事を知ってましたか? 「白子川」の水源は如意輪寺附近であり、下保谷村で大泉堀となり、白子川となっていたのです。

明治大学全国校友会 第四六回 山形大会開催

「紅花の山形紫紺の集い」として、平成二二年度九月五日、吉村美栄子山形県知事、市川昭男山形県市長、長山本信天童市長はじめ多数の来賓及び向殿校友会長、長堀理事長、納谷学長等大学役員の出席のもと開催されました。

懇親会は山伏による法螺貝、祝舞、鏡開き、乾杯のあと、山形舞妓、花笠踊りを観賞しながら、それぞれ旧交を暖めて閉会となりました。

写真は宮城浩蔵先生の胸像山形県出身の明治大学創立者の一人です。



第四回ハイキングの梗概

S三一年工学部卒
野口清次

平成二年七月一日(日)
気象庁が梅雨明け宣言をしたその日、クラブツーリズム主催の地元から発着する「日帰りバスツアー」に参加した当日は、絶好の行楽日和の朝を迎えました。

田無駅前支部長以下一五名が乗り込み続いてひばりが丘駅前で三名が合流し併せて一八名が参加しました。

ひばりが丘駅前を七時三〇分(定刻)に目的地の谷川岳、玉原高原に向けて走り出しました。

今回のハイキングはバス便で少々遠隔の地で景観を眺めながら散策を楽しむ日帰りコースを目的に役員会に計り、本件を採用した次第です。

座席数四〇のバスで、我が校友会以外の団体や個人客二〇名を併せ三八名が乗り合せ、車内は貸切りバスの場合と違い酒を飲み交わす事も自粛し、物足りない気もしましたが……

バスは激しい渋滞に巻き込まれることもなく最初の目的地谷川岳登山口の土合に一〇時四〇分に到着した。この地点から国内で最もクライマーに人気の一の倉沢の岩壁に至近の所まで散策の計画があつたのですが

時間的制約(往復二時間)がありこの度はロープウェイで天神平行きに全員参加しました。僅か一〇分で天神平(標高三〇〇〇)に到着。そして天神山(標高二五〇二)へと足を延ばし目の前に広がる谷川岳の山々、正面のトマの耳(薬師岳、標高一九六三)、その左に万太郎山(一九五四)一の倉岳はトマの耳の後部に位置し、

残念ながら見えませんが、混み合う山頂で弁当を広げ、しばし景色を楽しみ、一二時四五分発のバスに間に合うべく下山しました。次の目的地の玉原へは渋滞に会い三〇分程遅れて四時二〇分に到着しました。数万本のラベンダーは少し早過ぎた様子だったけれど、観光に多くの人が訪れていました。滞在一時間半一五時四五分に帰途につきました。ご参加頂いた皆さんのご協力に依り事故もなく感謝致します。

秋のリーグ戦がはじまりました

春の東京六大学野球はプロ野球出身の江藤監督が率いる慶應が11年ぶりに優勝して幕を閉じました。我が明治は、開幕4連勝して勢いに乗り、秋に続く連続優勝かと思われましたが、その後4連敗、最後にライバル法政に連勝して6勝4敗、3位に終わりました。3季ぶりに早稲田を連破したものの、何と伏兵の立教に連敗したときは守備の乱れが激しく、ショックの為か続く慶應との試合も1点差で惜敗が続き涙を吞みました。今秋のリーグ戦は早稲田の斉藤投手が30勝300奪三振を目前に控え中心的存在となるものと思われませんが、我が明治も先の世界大学選手権で活躍した荒木内野手(4年)、野村投手(3年)を軸に春の雪辱を果たしてくれるものと思います。

先ずは第3週(9/25、26)の早明戦が大きなヤマ場になり続く第5週(10/9、10)の明法戦が勝負どころだと思います。勢いに乗れば第6週慶明戦も撃破する事でしょう。昨秋に続く優勝もユメではありません。神宮球場は今春から一般であっても学生応援席に入れるようになりました(500円)。屋根の無い球場で秋の空を眺めながら、現役学生と肩を組んで「紫紺の歌」を腹の底から歌えばこれ以上の健康法、ダイエット法はありません。是非、神宮の森へ足を運んでみてはいかがでしょうか。

秋のリーグ戦日程

第1週	9/11(土)	慶大-東大	法大-早大
第2週*	9/12(日)	早大-法大	東大-慶大
	9/18(土)	明大-東大	法大-立大
	9/19(日)	立大-法大	東大-明大
第3週*	9/25(土)	慶大-立大	早大-明大
	9/26(日)	明大-早大	立大-慶大
第4週	10/2(土)	法大-慶大	早大-東大
*	10/3(日)	東大-早大	慶大-法大
第5週	10/9(土)	法大-明大	東大-立大
	10/10(日)	立大-東大	明大-法大
第6週	10/16(土)	明大-慶大	早大-立大
	10/17(日)	立大-早大	慶大-明大
第7週	10/23(土)	明大-立大	東大-法大
	10/24(日)	法大-東大	立大-明大
第8週	10/30(土)	早大-慶大	
	10/31(日)	慶大-早大	

*頭字校が先攻三塁側 *印はプロ併用日

第四回 日帰りバスツアー (群馬吹割の滝と川場温泉) へのお誘い

- ◆出発日: 11月12日(金)
- ◆対象: 会員と家族、会員の友人
- ◆定員: 27名(最小催行人員20名)、定員超過時は補欠になります。
- ◆参加費: 会員と家族8,000円・友人9,000円 (バス代、保険料、昼食、入浴料を含む)
- ◆申込期間及び申込先: 9月28日(火)~10月3日(日) 集合場所と参加者名をお知らせください。後日、地域担当役員が集合に伺います。担当: 垂水(タルミ) 電話・FAX: 042-423-6822 (11:00~17:00)
- ◆集合・出発: 西東京郵便局前 7:35集合 7:50出発 ちもれびホール前 7:55集合 8:10出発
- ◆行程: 西東京市→所沢IC(関越道)→沼田IC→吹割の滝→川場「悠湯里庵」(昼食・入浴・休憩)→沼田IC(関越道)→所沢IC→西東京市18:45頃(予定)

◎川場温泉の「悠湯里庵(ゆとりあん)」は、かやぶきの源泉湯宿で、テレビなどで紹介されています。 ※入浴用具をご持参ください。



ぶらり柴又へ S三一年政経卒 有賀 茂

今年のGWに学生時代お世話になった鷺谷の下宿を訪ね、その帰り映画「男はつらいよ」の舞台となった柴又に行ってきた。京成柴又駅を降りると駅前広場には寅さんの銅像が

あり、これを背景に写真を撮る人がいる。ここから帝釈天までの参道の両側には団子、草餅や佃煮などの店が軒を連ね人通りも多い。主演の渥美清は昭和三年東京上野で生まれた。大不況の時代である。地方新聞の記者だった父が失業し、母が仕立物の内職で家族を養った。少年時代の渥美の家は、昼の弁当も持つて行けない程貧しかったようである。二〇代の時、結核で倒れ死と向き合った。渥美が若い頃歌った「泣いてたまるか」に、上を向いたらさりがなく、下を向いたらアトがない、さじを投げるはまだまだ早い。という一節がある。この映画の監督をした山田洋次さんは昭和六年満州

で生まれ、父は満鉄で技師をしていた。山田が東大法学部に入學した年、両親が離婚した。落ちこむ山田を元気づけようと学生寮の仲間が映画研究会に誘ってくれた。卒業後松竹に入社。昭和三十七年秋友人の作家を訪ねた。まだ駆け出しの監督時代で倍賞千恵子の「下町の太陽」を撮ることになった。作家との打合わせのあと帝釈天に案内された。最初の作品が出来た昭和四四年は佐藤栄作が首相で、アポロ十一号が月面着陸に成功。安田講堂の攻防戦、東名高速道が全面開通の年でもある。第一作の公開日、山田監督はフテ寝していた。「失敗したら会社を辞める」と大見栄を切った。社内試写会の評判はイマイチ。「喜

劇を作るはずが、真面目な映画になっちゃった。オレはもうだめだな」と思ったそう。その日新宿の映画館にいたプロデューサーから「すぐ来い」と自宅に電話が入った。駆けつけると昼間からお客さんがいっぱいだった。かくて平成九年までに四九の作品が生まれた。柴又是渥美の心の故郷である。



大学マーク

この大学マークは明治大学の「M」をモチーフとして、二一世紀に向けて明治大学が「限りなく飛翔する」イメージを伝えていきます。また、シンプルなデザインにより「親しみやすさ」を出し、その斬新な切り口は、「未来へのメッセージ」を伝えるデザインとなっています。

編集後記

▲連日猛暑続きの今年の夏、熱中症で体調を崩された方はいませんか。一方、全国各地でゲリラ豪雨による被害の増大等々、地球の温暖化が取りざたされる環境の変化。脈々と歴史を重ねつつ、新しい文化創造を展開するわが母校明治。先日カミングデイの案内状が届く。卒業五〇年。当時を懐かしみ同期会での友との再会を楽しみに。こうした中、地域支部会報第六号発行を手掛